

ノヤマ通信

vol.38 (2025.神無月)



森のようちえんヒュッテ

【9月の活動記録：4日山の基地、8日桂川渓谷、11日山の基地、18日山の基地、22日どんぐり王国】

●活動を見つめるコラム

「どうぶつの親子とふれあうこと」

9月の水辺の活動では、小さな稚ガニ（こども）をたくさん抱えたメスのサワガニをよく見かけました。初夏になると、サワガニのメスはお腹に卵を抱えて過ごし、約1か月ほどで卵から稚ガニがかえります。稚ガニはしばらく母親のお腹の下で育ち、ある程度大きくなると母親から離れていきます。お腹の下でちょこちょこ動く稚ガニの姿はかわいらしく、お母さんたちにも人気でした。（ちなみに、サワガニは世界中で日本にしか生息しない日本固有種です）



人間の子どもは、1歳の後半くらいになると、お母さんのまねをして人形のお世話をするようになります。ただ、それはあくまで「まね」であって、「親だから世話をする」という意味までは理解していません。なので、ときには人形を乱暴に放り投げてしまうこともあります。3〜4歳ごろになると、小さな個体と大きな個体が一緒にいるのを見て「親子かな?」「かわいいね」と言うようになります。親子という関係の意味を少しずつ理解し始めるのは5〜6歳ごろからだと言われ、「お母さんが食べものをあげないと死んじゃう」といったことを考えられるようになります。

一方で、子育て中の私たちは、どうぶつの親子を見ると、つい感情移入してしまうことがあります。親が子どもの世話をする姿はけなげに見えるし、たくさんの稚ガニを抱えた母ガニを見れば「大変そうだな……」と思わずつぶやいてしまう。自分自身、子どもを持ってから、種をこえて命に共感するような感情が増した気がします。みなさんは、どうぶつの親子にふれて、どんなことを感じていますか？

(ゆ)



▲9/11森のようちえんヒュッテ（山の基地：栗ご飯づくり）



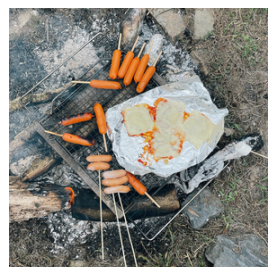
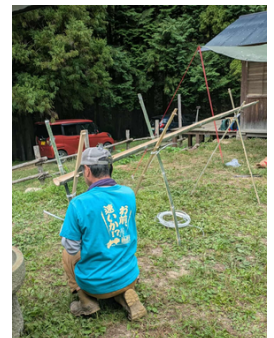
山の基地

【9月の活動記録：9/2、16、20、30…日常管理、9/23…開放日】

●開放日のできごと。「そうめん流しがやりたくて」という参加者の方が、竹を軽トラに積んで登場しました👏。テキパキとそうめん流しの準備をされ、他の遊びに来てくれた人たちと、みんなでそうめん流しを楽しませてもらいました。

その他にも、焚き火でいろいろなおいしいものを作りました（ずっと何か焼いていたので、ほとんどが食べ物の写真だった…笑）。お腹いっぱい、でも甘いものは別腹と話しながら、鬼ごっこしたり、川で遊んだり、昆虫採集を楽しむ合間に出来上がったものを食べに来る子どもたち。よく食べ、よく遊びました。

こんな持ち込み企画も歓迎です！山でやりたいこと、試してみたいことがある方は、お気軽にご相談ください😊。



✿✿ その他の活動

●イベント

○上松葉奥池ビオトープ生きもの観察会（9/13）

ビオトープで生きもの観察会を開催しました！たくさんとれたのはスジエビやヨシノボリの仲間。サワガニやツチガエル、ヒメガムシなどもよく見かけました👁️。

一昨年から駆除を続けているアメリカザリガニ（特定外来生物※）は、成体5匹、幼体2匹を捕獲しました。数は減っているものの、今後も継続的に調査をしていきたいと思っています。



※飼育しているアメリカザリガニを野外に放すことは、2023年から法律で禁止されています。

○風力発電 ⬆ の勉強会を開催（9/17、19）

市内で計画されている風力発電の計画について考える自主勉強会を、宇和の下宇和地区で開催。また、明間地区では学んできたことを発表する場をいただきました。

私たちは風力発電という技術自体を否定しているわけではなく、その立地や規模について問題がないかを計画ごとに考えることが大切だ、というスタンスで勉強会を開いています。地元の下宇和地区での回は、地区内だけでなく地区外からも多くの方にご参加いただき、ありがたかったです。

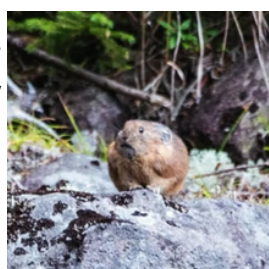


●ジオパーク全国大会に参加（9/24～9/28）

9/24から28にかけて、北海道で開催された第15回日本ジオパーク全国大会・十勝岳大会とエクスカーション（現地見学）に参加してきました🛩️。

今回は日本ジオパークネットワーク生態学WG（ワーキンググループ）の一員として、「とかち鹿追ジオパーク」のみなさんと一緒に分科会を運営。山のがれ場に生息するエゾナキウサギの保全を題材に、

- ・シンボリックな動物だけでなく、生態系や地形までどう守るか
- ・野生動物の観察をめぐる人間同士のトラブルをどう解決するか



という2つのテーマで議論しました。北海道は植物や動物が四国と全然違うので、巡検や移動中はワクワクしっぱなし💖。ほかの地域の口頭発表やポスター発表からも多くの刺激を受けて、新しいアイデアがいろいろと…。

これからも Think globally, Act locally（地球規模で考え、地域で行動する）の姿勢で、日々の仕事や活動に取り組んでいきたいと思っています。

●森のようちえん講演会に参加（9/27）

えひめ自然保育連盟主催の森のようちえん講演会@新居浜に参加してきました。講師は自然保育を40年以上実践されており、森のようちえん全国ネットワーク連盟初代理事長を務められた内田幸一さん。

講座の感想は、SNSに投稿したので、くわしくはこちらをごらんください。



いきもの情報

活動の中で出会った生きものたちを紹介します。

ドンコ

西日本の川の淵（ふち）や淀みで暮らす淡水魚。石の隙間や下に巣をつくり、その周辺を生活範囲とします。岸辺のコンクリート化によって、すみかを失い、数が減っています。（9/8桂川渓谷）



よもやま話

●北海道出張から帰ってきた翌日のこと。家の玄関から10mくらいのところで、ハクビシンの死がいを見つけました。役場の人の手を煩わせるのもあれだし、それほど損傷もひどくなかったもので、「これは骨格標本を作れということだな」と思い、処置をして山の基地の一角に埋めました。1年後くらいにまた掘り出してみたいと思います。（ゆ）



<発行> 一般社団法人

ノヤマカンパニー



愛媛県西予市宇和町稲生237-1

✉ noyama.company@gmail.com